

## ひたちなか市の概況

### 【概況】

- 《自然》 茨城県の中央部からやや北東に位置し、北に東海村、西に常磐自動車道の通る那珂市、南は那須岳を源流とする那珂川を挟んで県都水戸市、大洗町と接しており、東は中生代白亜紀層を中心に、約13kmにわたる美しい海岸線が続いている。また、広大で花と木々豊かな国営ひたち海浜公園もあり、水と緑に囲まれたまちである。
- 《文化》 国、県及び市指定の重要な文化財が数多く存在している。中でも、古墳時代に造られた彩色壁画を有する国指定史跡の「虎塚古墳」は毎年春と秋に一般公開されており、多くの見学者が訪れている。また、隣接する県指定史跡の「十五郎穴横穴墓群」では、平成23年に行われた発掘調査により、玄室から金銅製金具のついた刀子とうすと県内2例目となる大刀たち（わらびてとう）が出土した。
- 《交通》 鉄道は、JR常磐線を主軸に、水戸線、水郡線が接続しており、平成20年4月に第三セクターとして開業したひたちなか海浜鉄道が、勝田駅と那珂湊駅、阿字ヶ浦駅を結んでいる。港湾は、国際港湾として重要な役割を担う「茨城港常陸那珂港区」が、東日本の国際流通拠点として期待されている。道路では、本市から群馬県高崎市をつなぐ総延長158.8キロメートルの北関東自動車道が平成23年3月に全面開通した。これらの交通は、ひたちなか市の多様な産業の流通を支えている。
- 《産業》 勝田地域は、電機、機械、精密機械、紙製品などの工業を、那珂湊地域は水産加工業を主体とした食品製造関係水産業を基幹として発達してきた。これら既存の産業に加え、ひたちなか地区では、工業用地の整備が進み、企業の立地が活発化している。また、市内には二つの漁港があり、近海沿岸漁業の基地となっている。農業では、干しいもが特産となっており、日本一の生産量を誇っている。
- 《特色》 「ひたちなか海浜鉄道湊線」は、通勤、通学の利用のみならず、地元と連携したイベントを開催し、海水浴シーズンはじめ、1年を通して多くの観光客が利用している。
- その他にも、2万人を超えるランナーが参加する「勝田全国マラソン大会」、野外音楽イベントなど、国内外から多くの人、物、情報が交流し、自立と協働のまちづくりがすすめられている。

### 【市施行】

平成6年11月1日

### 【面積、人口及び世帯】

令和5年4月末日現在

人口	世帯数	一世帯平均	面積	人口密度
154,419人	68,335世帯	2.26人	100.26km <sup>2</sup>	1540.19人/km <sup>2</sup>
78,102人(男)				
76,317人(女)				

(人口・世帯数は住民基本台帳による。)

【市の花】 はまぎく

【市の木】 いちょう

【市の鳥】 うぐいす